

「地球環境問題」という言葉を聞いた瞬間、何か「重苦しいもの」を感じてしまう。地球環境の破壊が現代社会の副産物であるのは間違いない。したがって、それを問題にすることは、ある意味で、我々の、今の「暮らし」や「生き方」を否定することでもあり、何となくやるせない気もする。しかし、今こそ一人ひとりが、二一世紀における持続可能な社会のことを考えて、「今のライフスタイルや価値観を変えなければならない」とも思う。では一体、「それをどうやって、どこまで変えればよいのか」と考えだすと、今度は

自分の中に、「アンビバレント(両面価値的)」なものを感じてしまい、途端に自信がなくなるのである。そして、もつと厄介なのは、この問題が政治問題的(いや、まさに政治問題の)側面をもつことだ。養老孟司氏もその著書(『いちばん大事なこと』)で指摘するように、例えば、いくら我々が、毎日の生活の中で省エネを心がけ、ゴミを減らし、仮に日本の二酸化炭素排出量を一〇パーセント減少させても、日本の一〇倍の人口を擁する中国の全国民が、今より多くの化石燃料を使用して、二酸化炭素排出量を一パーセント増やしたら、日本の努力は、短期的には相殺されてしまうことになる。だからといって、エネルギー多消費の恩恵を享受する我々が、中国国民のエネルギー消費を拒むことはもちろんできない。そこには、個人の努力の範囲をはるかに超えた、極めて政治的な国際間の調整事項が存在する。しかし、今や(今まで散々言われ続けてきたことである)我々は、この問題から逃げることはできない。松



東京・世田谷区の砧公園にて

編集後記

から「エコライフ」を捉えることを特集した。自らの生き方として、また価値観の発露としてこの問題に取り組み姿が新鮮だった。そこには「便利さ、快適さ、スピード」だけではない、別の「新しい豊かさ」があることに気付かされる。「大量生産―大量消費―大量廃棄」を前提としたこの社会のシステムは、少しずつ変わろうとしている。しかし今、本当に必要なのは、「変わる」のを待つ姿勢ではなく、「変える」という自分自身の生き方としての、一人ひとりの行動なのではないだろうか。――河瀬 隆

From Editor

井孝典氏は「人間は生存を維持するために自然を利用し、改変し、破壊してきた。しかし一方で、自然とは何かということに、絶えず目を向けてきたのも人間である」(『地球・四六億年の孤独』)と述べているが、まさにそのはずだった。ならば、今の現実はその必然の結果にすぎないのか。地球が今、人間の存在を試しているのか。「地球環境の危機が深刻になったのはここ半世紀。ただかこの半世紀で、地球を危ない状態に追い込んだその時代に生きた人間の責任は大きい。便利さ、快適さ、スピードを求める人間の欲望は無限ですから、どこかで歯止めをかけないと。それには『人間とは何か?』ということから考えなければ解決できないかもしれない」。

海の砂漠化を防ぐため、自らも植林活動に取り組み松永勝彦氏はこう語る(『漁師が山に木を植える理由』)。
今、二一世紀における我々の生き方が問われているのは間違いない。それは、まるで地球が我々に発する「人間の存在理由そのもの」について問いのようでもある。

表紙写真 [上] 古材を利用した住宅リフォームのための「埼玉古材ギャラリー」(川越市)
[下] 省エネルギー・環境保全等をテーマとした大阪ガスの実験集合住宅「NEXT21」(大阪市)
裏表紙写真 [上] 琵琶湖畔の風景(大津市、7月1日の「びわ湖の日」に) [左下] サイクルステーションで自転車を借りて犬の散歩に(秋田県二ツ井町)
[右中] ゴミ減らし通信舎の資源回収(神戸市) [右下] ペットボトル、牛乳パックなどの分別回収ボックス(大阪市内のスーパーマーケット)

CEL 70号 特集●「エコライフ」という生活者価値 発行 平成16年9月30日 頒価1,000円(送料290円)

- 発行 大阪ガス エネルギー・文化研究所 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-6-14 アーバネックス備後町ビル4F
- 発行人 真名子敦司 Atsushi Manago
- 編集人 河瀬 隆 Takashi Kawase 弘本由香里 Yukari Hiromoto

編集●関西ビジネスインフォメーション(株)内 CEL編集室
〒541-0051 大阪市中央区備後町3-4-9 輸出繊維会館7F TEL.06-6228-3315

印刷・製本●土山印刷株式会社

RESEARCH INSTITUTE FOR CULTURE, ENERGY & LIFE ©2004 OSAKA GAS CO.,LTD

禁無断転載複写

本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも小社の見解を表すものではありません。
本誌・バックナンバーのコンテンツや当研究所の活動内容はインターネットホームページ[<http://www.osakagas.co.jp/cel/>]でご覧いただけます。

本誌に関するお問い合わせ、ならびにご購読申し込みや送付先変更等のご連絡は CEL編集室 Tel.06-6228-3315 Fax.06-6228-3302 cel@kbicom.net まで